

# キャリアを考える「場」をつくる (1)

## —キャリア開発ワークショップとの出会い—



### 小野田博之

有限会社キャリアスケープ・コンサルティング 代表

おのだ・ひろゆき ● 経営人事コンサルタント、キャリア・カウンセラー。大学卒業後、新聞社記者、ソフトウェア会社人事教育部等を経て、現職。内的キャリアを自覚した個人と社会的ミッションを自覚した組織の成長、発展の支援を目的とした経営コンサルティング、組織開発／キャリア開発、キャリアをテーマとしたグループワーク、カウンセリング等を行っている。



社会に出て初めて受けた研修は新人社員研修でした。社内を「取材」して回ったり、カブに乗って朝刊を配ったり、一軒ずつ購読依頼して回ったりと新聞社ならではのものでした。今も懐かしく思い出されます。いつまでも心に残る研修——皆さんにはどのようなものがあるでしょうか？

私にとって「キャリア開発ワークショップ・CDW」は転機となったものです。受講したのはもう四半世紀前。「キャリアの研修に行ってください」というと「リストラですか？」という返事がほとんどだった頃です。

#### 日々の忙しさを脇に置く

駅からマイクロバスで小半時、太平洋を望める研修所は社員の保養施設も兼ねていて、プールやテニスコートもありました。2泊3日、広めの個室が提供され、ナイフとフォークで食事をいただくその施設は、普段のバタバタした生活から距離を置ける場でした。最初は長いレクチャーがあつた後は、ひたすらワークシートを介して自分と対話をする時間でした。夕食後は、ほかの参加者との対話や自身の振り返りなどに充てられます。過ごし方は自分で決めてよく、まさに「自分のことを丁寧に、真剣に、そして自分自身で考える」設計でした。

キャリアカウンセリングも受けられます。そのとき、カウンセラーが口にした一言で、私の仕事人生は大きく変わるのですが、初めて出会ったカウンセラーとの一時間弱の対話でそこに思いが至ったのは、こうした場だったことも影響しているでしょう。

#### だれが幸せにしてくれるのか？

このワークショップは米国石油メジャーの日本法人で開発されました。開発の経緯を尋ねたところ、日本オリジナルとのことでした。なぜか？ 本国では自分のキャリアを考えるのは当たり前前で、むしろ、それらが会社から示されるものであり、それを受け容れるものだとしている日本人社員の考え方に、当時の日本人のトップ（もちろん米国人）が疑問を感じたとのこと。

キャリアを考えないということは、自分はどうだったら「幸せ」なのかを考えていないということです。「こういう生き方がシアワセなのだ」と示されるので、「そうか、これがシアワセというもののなのだな」と思っているに過ぎません。

「では、会社がなくなったらどうするつもりなのか？」というのがトップの危機感だったそうです。自分らしいキャリアを生きるなら、その「物差し」が必要で、それを考えようとする、この形になったというわけです。

#### 個と組織、社会との共生

これだけでは「自分さえ良ければ」と自己中心的になりはしないかという懸念が生まれます。しかし、さらに考えを深めると、自分らしいキャリアを生きようとするとき、そのステージは職場、そして会社、ひいてはこの社会しかないということに行き当たります。自分らしく生きるには、職場や会社、そして社会もよくなっていなければならぬということに思いが至ります。

す。そもそもこの豊かな場が会社によつて提供されているのだという事実がその納得感を高めます。

#### キャリアの考えどき？

ところで、私は派遣してくれた上司にとっても感謝しているこのワークショップですが、自分のキャリアを考えるにはこれしかないのでしょうか？

そもそも、これまで自分のキャリアについて考えたことがないという人はいらっしやらないのではないのでしょうか？ 例えば就職・転職、異動、昇進など自分の転機に出会ったとき、あるいは友人の就職や結婚という人生の節目を耳にしたとき……ふと「このままでいいのだろうか」と考えはじめたりはしませんか？ 車内の吊り広告を見て「もしかしらたら違う人生もあるのでは」と思ったりしたことはありませんか？

そう考えると敢えて場をつくらなくても、日々の中で考えればよいのではないかという思いも浮かびます。

しかし、いつまでも思いふけつていくわけにもいかず、電車が駅に着けば降りなければなりません。実際には現実に呼び戻され、そうした思いや考えは曖昧な断片のまま記憶の隅に埋もれてしまうのです。そして、急な意思決定を迫られて右往左往したり、逆にないまま日が過ぎて気がつけば「ああ、あのときもって考えておけば」と遠い目でつぶやいていたりするのではないでしょうか。

ではどうしましょう？ この「企業研修の現場から」というスペースで、「キャリアを考える『場』」ということについてご一緒に考えてみたいと思います。